

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立西唐津中学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・前年度の保護者アンケートからは、客観的におおむね良好な結果が得られた。PTAや地域からの協力や理解が大きく、生徒もそれに応えようと努力する姿が増えてきた。特に「あいさつ」については職員、生徒、保護者の肯定的な意見が昨年度より大幅に増えた。職員も「出番・役割・承認」のサイクルのもと、生徒指導主事を中心として、自己肯定感を高める開発的生徒指導についての研修を重ねながら、生徒の指導に一丸となって取り組んでいる。学力向上については、授業に臨む態度は向上しているものの、結果として表れず、課題が残った。PDCAサイクルを機能させ、さらに学力向上についての研修を重ねる必要がある。小中連携の研究指定を活用して「学力向上」のために小中で共通した学習規律の確立を図り、授業においては指導法の研修を深め、教師の指導力及び生徒の学力向上を図っていく。また、家庭学習については特に課題が多い。家庭学習の充実のためには、保護者に生徒の実態を把握してもらい、危機感を感じながら家庭の協力を得られるようにする。家庭やPTAとさらなる連携の強化を図りながら全ての職員が共通理解のもと、基本的な生活習慣を定着させるとともに生徒会の取組についてもさらに充実させていく。また道徳や人権教育を中心とした心の教育にも今後さらに全職員で重点を置いて進めている。</p>
2 学校教育目標	自他の「いのち」を尊び、自立し貢献できる生徒の育成
3 本年度の重点目標	1 学力の向上 2 生徒指導の充実 3 人権意識の高揚 4 働き方改革の推進

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上。	・校内研修でマイプランや各教科の取組を共有するとともに、学力向上に向けた取組の促進を図る。	A	・マイプランの成果指標を達成した教師の割合は85%となり、目標を達成することができた。 ・学期に一回、授業の振り返りを行うことで、教科の指導方法を考え直すことができた。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
	○基礎学力の向上のための授業づくりの実践 ○補充学習と放課後レベルアップ学習会の実施	○定期テストで基礎的な内容の正答率が80%に達した生徒の割合が70%以上。 ○「意欲をもって補充学習に取組むことができた」生徒の割合が70%以上。	・校内研修を通して、指導方法や評価の在り方について研究実践を行う。 ・電子黒板やタブレット端末などのICTを積極的に活用した授業改善に取組む。	A	・自分の意見を伝えたり深めたりすることができた生徒が92%となり、目標を達成することができた。 ・生徒にとって分かりやすい授業を目指して、職員の90%以上が電子黒板やタブレット端末などのICTを積極的に活用した授業改善に取組んだ。		・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒75%以上。	・TTによる道徳授業を組むことで、生徒のささやきをひろい、思考を深める。 ・学校行事や地域行事等への積極的な参加を促す。	A	・生徒の考えが深まるような道徳の時間の授業ができた教師が83%いた。 ・あらゆる機会を通して、豊かな心をはぐくむ教育活動ができた。	道徳教育推進教師	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上。	・いじめの防止、対応についての研修を年間2回以上行う。 ・覚知時には対策委員会を立ち上げ、保護者と連携しながら解決に努める。	B	・全職員で「いじめへの対応」についての研修を定期的に行ったことで意識が高まり、全職員が未然防止や早期発見に心掛けることができたという回答であった。しかし、生徒の肯定的な回答は、81%であったため引き続き組織的な対応をしていく必要がある。	・生徒指導主事 ・人権・同和教育担当	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上。 ○朝食を食べる割合90%以上。	・体験活動等を活用して食への関心を高める。 ・各学級一回は学活の時間に食育指導を行う。	B	・「健康ニュース」や「ばくばくだより」などの保健室だよりなどを通して、食育指導も含め健康に関する生徒への啓発活動を行うことができた。 ・「朝食を食べる」割合は87%であったため、引き続き計画的な食育指導が必要である。	食育担当	
	○教育相談の推進	○「学校生活が楽しい」と回答した生徒の割合が70%以上。	・気になる生徒の把握をする会議を定期的に行う。また、SCやSSWの活用などを含め小中合同の教育相談部会を定期的に行う。	A	・定期的な会議や小中合同のケース会議を行い、外部機関と連携するなど、気になる生徒の情報共有・支援を継続して行うことができた。 ・「学校は相談しやすい環境を整え対応していると思う」と回答した生徒が87%いたが、今後も相談しやすい環境づくりに努めていく必要がある。	・教育相談担当	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定。 ・部活動ガイドラインに則った部活動休業日の設定と確実な実施。 ・会議のペーパーレス化など会議や事務の効率化を図る。	B	・半数以上の教職員が時間外勤務時間の削減に努めているという評価をあげており、意識の向上はみられるが、更に進めたい。	・教頭	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	主な担当者	
○キャリア教育	○キャリア・パスポートによる自己成長のための見直しと振り返りにより、生徒の志を高める教育活動	○キャリア・プランニングを作成することができ、自分の将来について肯定的な考えを持つことができたことと回答した生徒の割合が70%以上(4段階評価による数値評価)。	・キャリア・プランの作成とキャリア・パスポートの記入による、見直し立てと振り返り活動を行う。 ・キャリア・パスポートと学校生活を繋げることで、自分の長所に気付かせる。	A	・各学期のキャリア・パスポートの記入は、ほとんどの生徒が目標を立てることから、自己の振り返りまでを行うことができた。学校生活や行事に関連させて振り返りを行う生徒もいた。 ・自分の将来について肯定的な意見を持つことができたことと回答した生徒の割合は86%だった。数値目標は超えているが、今後も継続したキャリア教育の必要性を感じた。	・総合的な学習の時間担当	
○特別活動の充実	○生徒の主体的な活動の活性化	○規則正しい生活習慣の醸成を行い、あいさつの意識づけや授業遅刻者を0(ゼロ)にする。	・生徒会を中心にあいさつ運動を行う。 ・学校全体で場に応じた行動(服装・言葉遣い等)に努めさせる。	A	・あいさつ運動の取り組みを通して、生徒にあいさつをするきっかけや意識させる場面を継続的に作ることができた。今後も粘り強く継続的な取り組みが必要である。 ・学校生活において、大部分の生徒が、場に応じた服装や言葉遣いができたと回答したが、今後も規則正しい生活習慣の醸成を行う必要がある。	・生徒会担当 ・生徒指導主事	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育							
5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・重点目標の学力向上については、全教員による教科ごとの授業参観や校内研修にて取組目標を達成することができた。心の教育については、日々の教育活動の成果が生徒の行動面などでよい結果として現れている。また、「いじめ対応」の研修を行い、教職員の意識の向上を図り、いじめの未然防止に努めることができた。健康・体づくりでは、不登校に関する定期的な会議を行い、生徒の情報共有・支援を継続的に全職員で対応することができた。 ・授業力の向上に関しては、校内研究や職員個人のマイプランに基づき、授業改善をすすめているが、まだ納得のいく成果が現れていない。今後もICTの活用などを含めた指導法の研究が必要である。 ・いじめの対応について、職員の研修や実践を重ねているが、生徒の肯定的な回答が8割を超えた。また、教育相談の面でも肯定的な回答は8割を超えたが、外部講師の招へいによる研修など今後の更なる取組が必要である。</p>						